

16 左精巣炎後に継続した陰嚢部痛に対し 桂枝茯苓丸を使用した症例

北海道立子ども総合医療・療育センター 小児泌尿器科¹⁾

札幌医科大学 感染制御・臨床検査医学講座²⁾

上原 央久¹⁾、小林 元気¹⁾、高橋 聡²⁾

症例は12歳男児。左陰嚢部痛が3週間ほど継続するため近位泌尿器科受診。

左精巣上体炎の診断でCEXの投与を受けたが2週間たっても疼痛が改善せず、当科に紹介初診となった。当科受診時の診察所見では左精巣に圧痛を認め、超音波検査では左精巣の血流が右と比べやや更新していた。尿検査では

明らかな膿尿は認めなかった。左精巣炎の診断でST合剤と消炎鎮痛剤を使用したが生症状の改善は認めなかった。非典型的な経過より病歴の詳細を再確認したところ発症の1ヶ月前にCOVID-19に罹患しており、COVID-19罹患後の疼痛症候群やIgA血管炎を考慮した。小児科に入院し血管炎を考慮したステロイドによる治療を施行したが症状改善せず、精査で血管炎を示唆する所見も認めなかった。疼痛は当科受診1ヶ月後も継続しており、消炎鎮痛薬剤の使用も長期間におよんだことから桂枝茯苓丸の内服を開始した。疼痛に関しては初診時と比べやや改善したが、当科受診から2か月を経過した現在も継続しており心因性の疼痛も念頭に入れ、現在は精神科受診や内服加療を継続中である。加療後も長期にわたり疼痛が継続する精巣炎は稀であり文献的考察を踏まえ報告する。